秋　田　市

大　杉　沢　遺　跡

携帯電話無線基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書

1997.9
東北セルラー電話株式会社
秋田市教育委員会

序

本書は、秋田市四ツ小屋小阿地地内に所在する大杉沢遺跡の発掘調査報告書です。

当社では自動車・携帯電話の需要増加に対応するため秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢にデジタル方式携帯電話無線基地局の建設計画をしました。しかし、予定地は大杉沢遺跡の中であることから秋田市教育委員会と協議を重ね、工事着工前に発掘調査を実施することとし、平成９年の４月下旬に範囲確認調査を、５月下旬に発掘調査を実施いたしました。

この遺跡の北西部分は国道13号バイパス建設工事で秋田県教育委員会によって調査が行われ、縄文時代から中世にわたる複合遺跡であることが知られておりました。

今回の調査では、平安時代後半の土壙等が確認され、台地の利用を考える上での貴重な資料を得ることができました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、埋蔵文化財保護のために広く活用され郷土の歴史や文化を研究する資料として多くの方々に利用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、発掘調査に尽力をいただいた秋田市教育委員会をはじめ、関係各位の皆様に深く感謝を申しあげます。

平成９年９月

東北セルラー電話株式会社
代表取締役　雫　石　　亮

例　　言

1　本報告書はデジタル方式携帯電話無線基地局建設に伴う大杉沢遺跡（秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢）の緊急発掘調査報告書である。

2　本報告書の執筆は菅原俊行・石郷岡誠一・安田忠市の助言を得て、西谷隆が行った。

3　遺跡の地形・地質は「土地分類基本調査　地形・表層地質・土じょう　秋田　経済企画庁総合開発局国土調査課　1966年３月」を参照した。

4　発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

目　　次

序

例言

調査の概要

調査に至るまでの経過……1

調査期間と体制……1

調査の方法と経過……1

遺跡の位置と地形・地質……2

遺跡の概観……2

調査の記録

基本土層……8

遺構と遺物……8

まとめ……11

調 査 の 概 要

調査に至るまでの経過

東北セルラー電話株式会社は秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢地区にデジタル方式携帯電話無線基地局の建設を計画した。しかし、計画地は大杉沢遺跡が所在することが確認されており、遺跡の北西部分は国道13号バイパス建設工事により昭和61年に県教育委員会の調査で実施されている。東北セルラー電話株式会社と秋田市教育委員会は協議を行い、平成９年４月21日に範囲確認調査を実施した。調査の結果、平安時代の遺構と遺物が確認され発掘調査面積を確定した。そして建設計画の変更や当該遺跡の保護について再び協議した結果、建設計画の変更は不可能であること、工事着工時期が迫っていることなどから遺跡を記録保存し発掘調査を実施することとした。

調査期間と体制

調 査 期 間	平成９年５月15日～５月29日
調 査 面 積	175㎡
調査主体者	東北セルラー電話株式会社
調査担当者	秋田市教育委員会
調 査 体 制	秋田市教育委員会文化課
	課　　長　　菅 原 俊 行
	課長補佐　　石郷岡 誠 一
	文化財係長　　鎌 田 照 平
	主　　査　　西 谷　　隆（調査担当）
	主　　査　　安 田 忠 市（調査担当）
	主　　事　　中 川 寛 之
調査作業員	鈴木銀一、三浦竹治、長谷部鉄治、三浦金司、鈴木市太郎、三浦タキ子、三浦千枝子、鈴木博子、鈴木ルミ子、宮田トキ子
整理作業員	鈴木博子、鈴木ルミ子

調査の方法と経過

調査区に任意の点１箇所を選定し、この基準杭から南北基線とこれに直交する東西基線を設け、４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。グリッドは東西方向（Ｘ軸）に西から数字（１，２，３・・・）を、南北方向（Ｙ軸）に南からアルファベット（Ａ，Ｂ，Ｃ・・・）を配し、その組合せをグリッド名とした。

発掘調査は５月15日から５月29日まで実施した。５月15日、調査を開始する。重機による表土除去作業。16日、機材の搬入、標高移動を実施する。19、20日、耕作土除去作業。南側および北側を拡張し、土壙、ピット等を確認する。21日、遺跡内を精査し、土壙、ピット等の調査を行う。23日、土壙の土層断面写真および実測を行う。終了後、覆土の除去作業、完掘写真撮影を行う。26、27日、土壙個別写真および全景写真撮影を行う。平面実測準備。28日、平面実測。29日、平面実測終了後、機材の撤収を行い調査を終了する。

遺跡の位置と地形・地質

遺跡の位置

遺跡は秋田市の南東部にあたる秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢に所在する。秋田市街から国道13号を南下し、仁井田、横山を過ぎ坂を上ると標高40m前後の広大で平坦な台地が開ける。この台地は末戸台台地と呼ばれており、遺跡はこの台地の北西端で、ＪＲ奥羽本線四ツ小屋駅の北東約1.6kmの横山町内南東部、標高30～40mの台地上にに位置している。

遺跡の地形・地質

遺跡周辺の地形は地形区分によれば大別して末戸台台地と和田丘陵に分けられる。

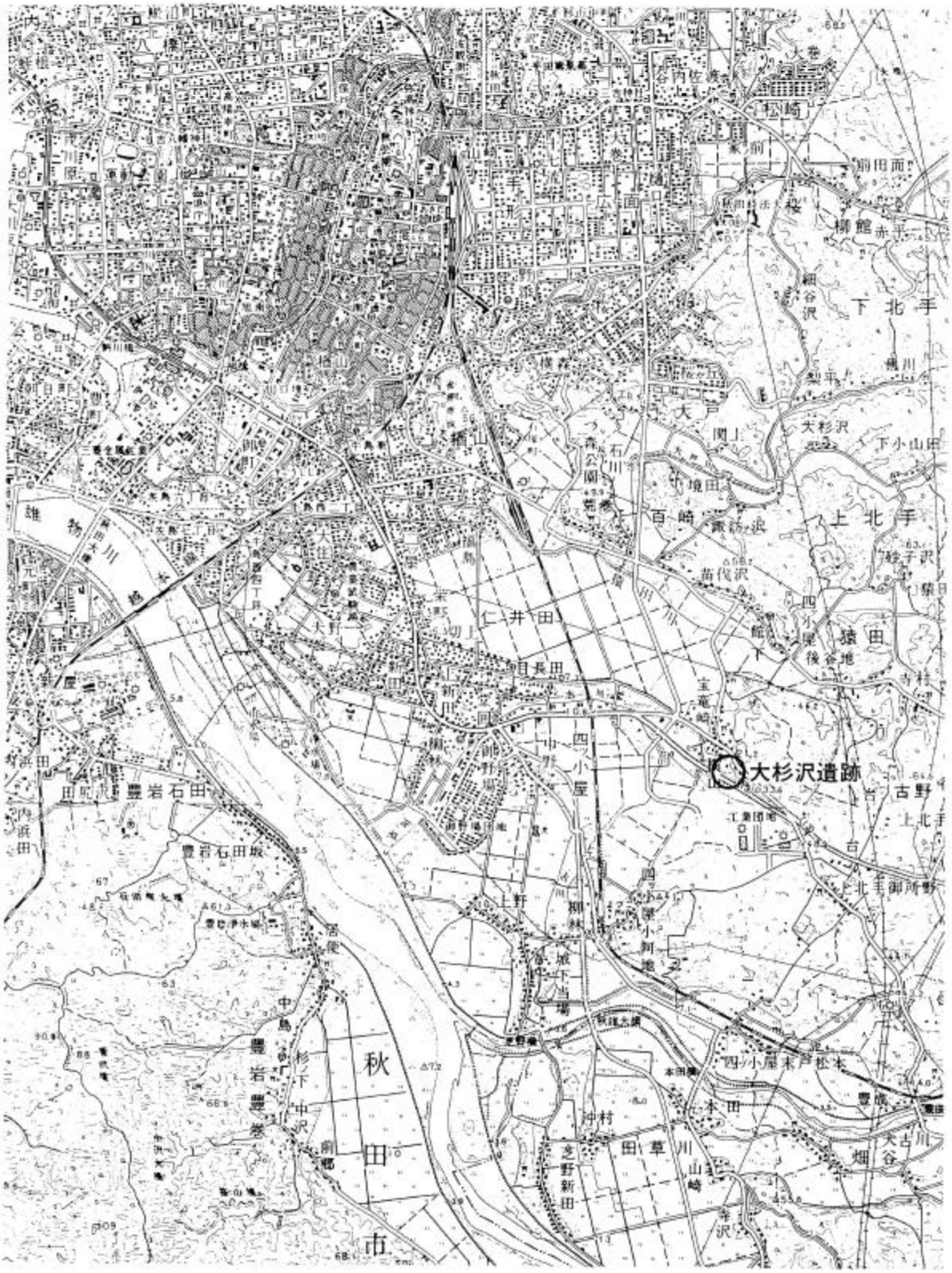
末戸台台地は標高20～50m強で、その表面はほぼ平坦である。この台地は地質学的には椿台段丘面（標高45～55m）、上野台段丘Ⅰ面（40～45m）、上野台段丘・面（30～40m）、宝竜崎段丘（25m前後）からなる。大杉沢遺跡は上野台段丘Ⅰ面に位置し、東側では椿台段丘面、南側では上野台段丘Ⅱ面と接している。上野台段丘Ⅰ面の段丘堆積物は最大径20～30cmの礫層で、厚さ５ｍほどあり、その上を１～２ｍの粘土質火山灰層が覆っている。

和田丘陵は平坦面が少なく、定高性を持った標高60～150mのかなり開析を受けた老年期地形を示し、地質は第３系鮮新統に属する青色砂質シルト岩（笹岡層）と青灰色塊状泥岩（天徳寺層）、それに中新統に属する暗灰色泥岩（船川層）などからなっている。

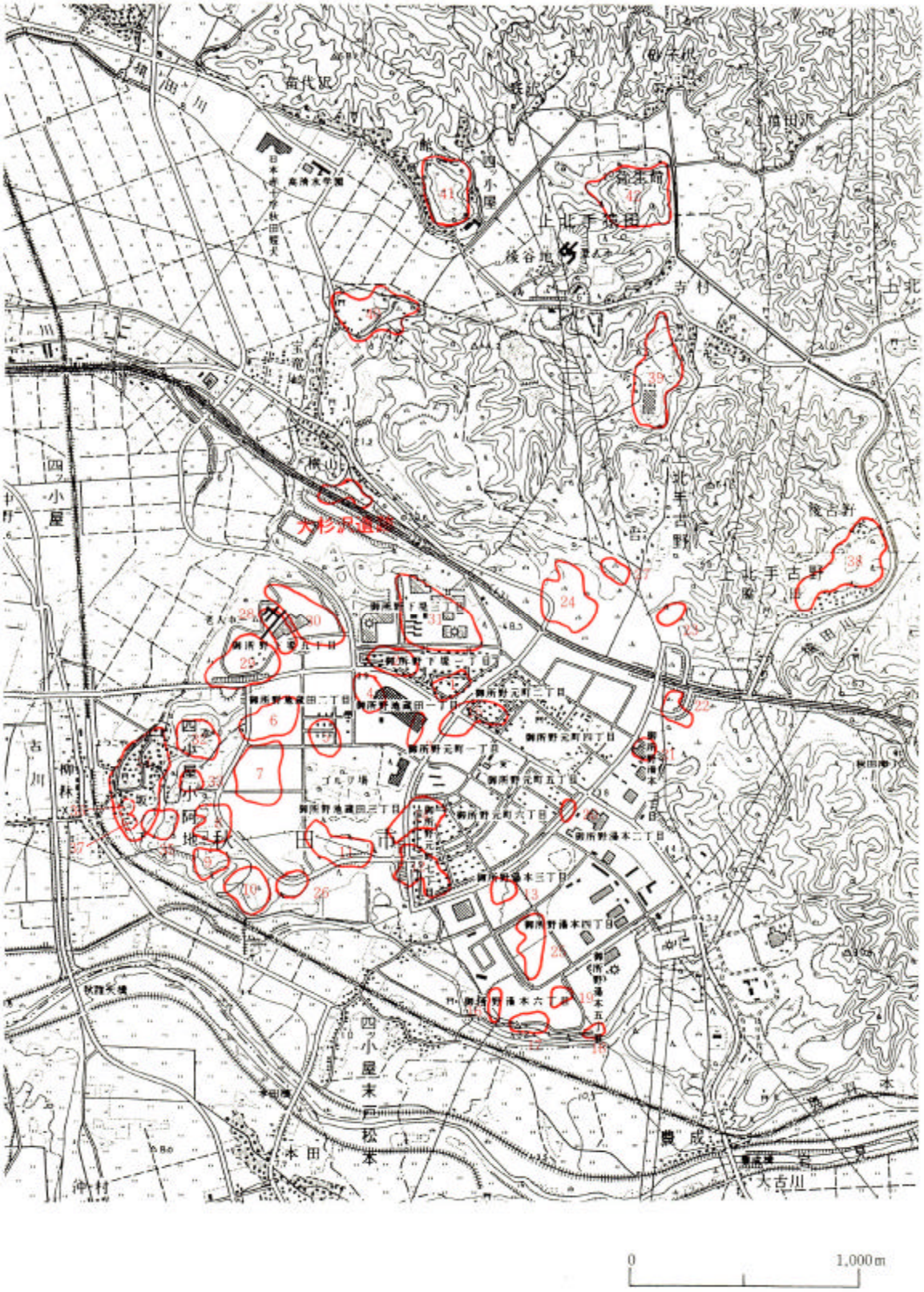
遺跡の概観

遺跡は末戸台台地の北西端で、遺跡の両側には大きな沢が入り込み、急峻な斜面となっている。調査区の南西側は昭和61年[注1]に秋田県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代中期前半から平安時代にかけての土壙、縄文時代後期の土器埋設遺構、古代の住居跡、時期不明の溝・環状溝状遺構などが確認されており、縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明している。今回はこの調査地点から約80ｍほど東に位置している部分であり、調査の結果、平安時代の土壙10基、また時期の不明なピットが40個確認された。

（注１）「大杉沢遺跡発掘調査報告書－一般国道13号御所野拡幅事業に係る埋蔵文化財発掘調査－」　秋田県文化財調査報告書第151集　秋田県教育委員会　1987年３月



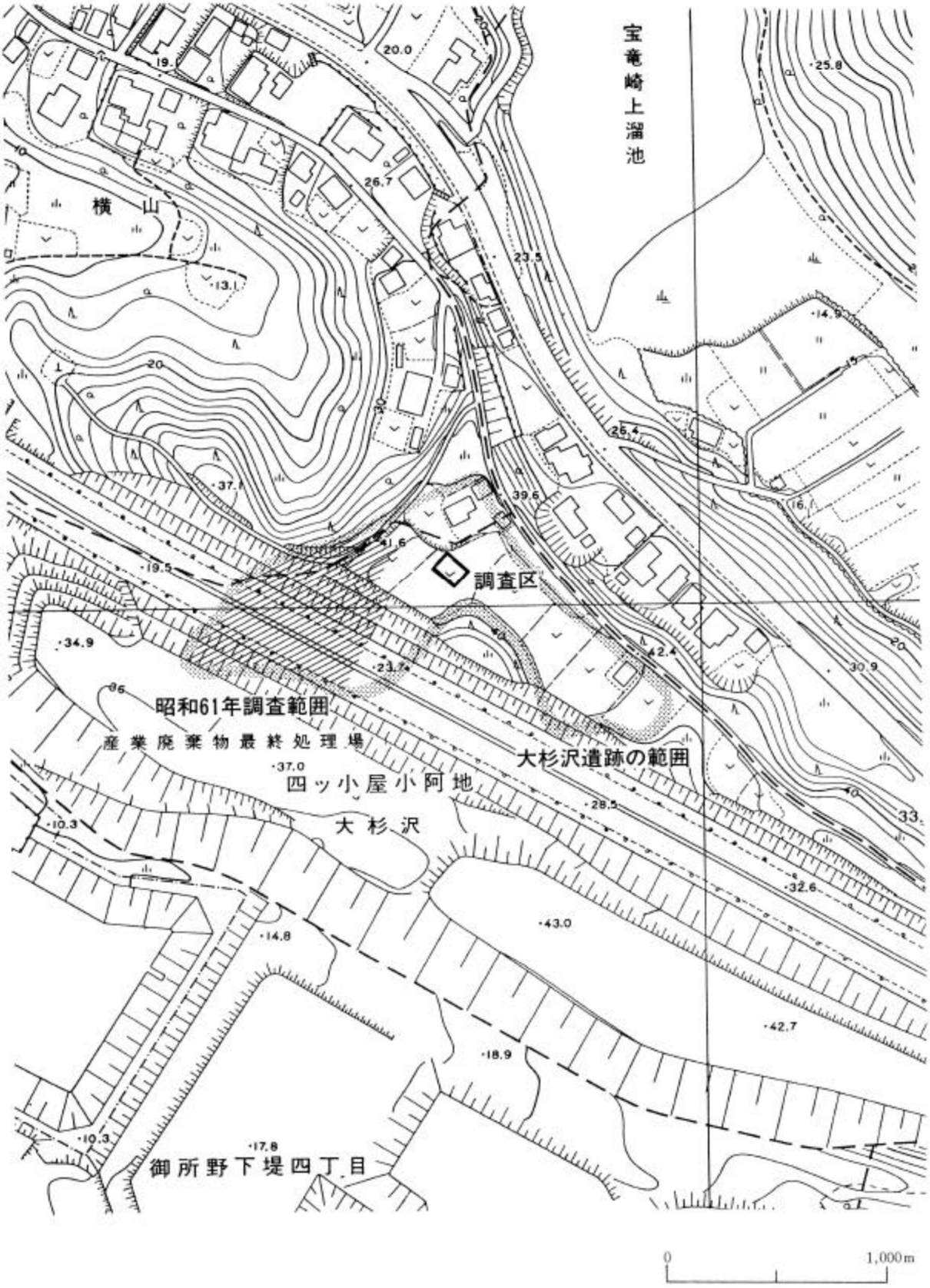
第１図　遺跡の位置



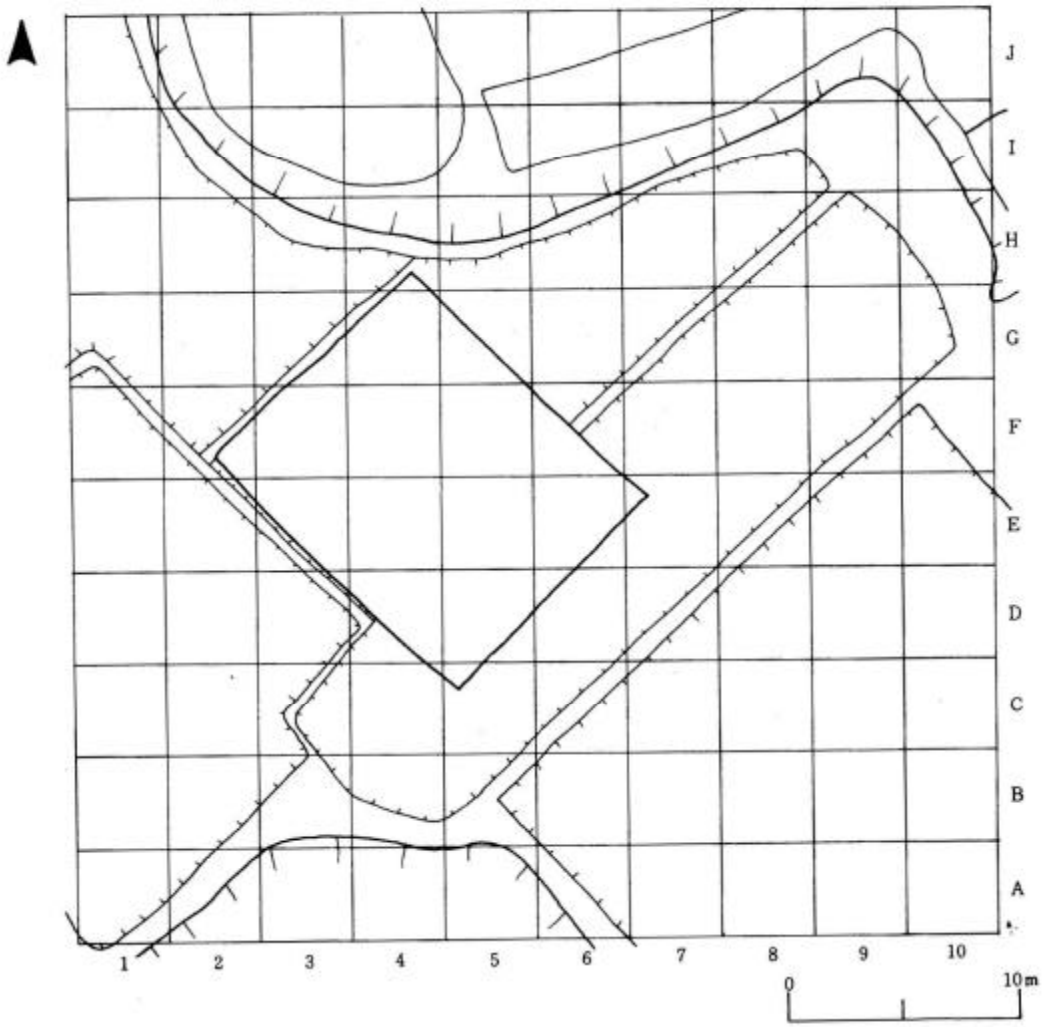
第２図　周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	遺構・遺物
1	下堤E	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	縄文(中期)	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
2	下堤F	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	縄文(前・中期)	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
3	下堤G	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	旧石器 縄文(前・中期)	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
4	坂ノ上C	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	遺物包含地	縄文(中・晩期)	縄文土器、石器
5	坂ノ上D	秋田市四ツ小屋小亜地字坂ノ上	遺物包含地	縄文(中・晩期)	縄文土器、石器、土製品
6	坂ノ上E	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	集落跡・ 製鉄炉跡	縄文(中期) 平安	竪穴住居跡、製鉄炉跡、炭窯、縄文土器、土製品、石器、石製品、須恵器
7	坂ノ上F	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	集落跡	縄文(中期) 弥生・古代	竪穴住居跡、土壙、掘立柱建物跡、、縄文土器、石器、土製品、弥生土器、土師器、須恵器、赤褐色土器
8	狸崎A	秋田市四ツ小屋小阿地字狸崎	集落跡 土壙墓群	縄文(前・晩期) 弥生	竪穴住居跡、土壙、土壙墓、縄文土器、石器、土製品、石製品、弥生土器
9	狸崎B	秋田市四ツ小屋小阿地字狸崎	集落跡	旧石器・縄文(中期)・弥生	竪穴住居跡、土壙、旧石器、縄文土器、石器、弥生土器
10	地蔵田A	秋田市四ツ小屋末戸松本字地蔵田	集落跡	旧石器・縄文(前・中期) 弥生・平安	竪穴住居跡、土壙、旧石器、縄文土器、石器、弥生土器、須恵器、赤褐色土器
11	地蔵田B	秋田市四ツ小屋末戸松本字地蔵田	集落跡	旧石器・縄文(中期)・弥生	竪穴住居跡、土壙墓、柵木列跡、土器棺墓、旧石器、縄文土器、石器、土製品、弥生土器
12	湯ノ沢A	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	集落跡	縄文(中期)・弥生	竪穴住居跡、土壙、土器埋設遺構、縄文土器、弥生土器、石器、土製品
13	湯ノ沢B	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	集落跡	縄文(中期)・平安	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器、土師器、須恵器、赤褐色土器
14	湯ノ沢C	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	集落跡	縄文(中期)・弥生	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器、石製品、弥生土器
15	湯ノ沢D	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	集落跡	縄文(中期)・平安	竪穴住居跡、土壙、炭焼窯跡、縄文土器、石器、石製品
16	湯ノ沢E	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	遺物包含地	縄文	土壙、石組遺構、縄文土器、石器
17	湯ノ沢F	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	土壙平安墓	弥生・平安	土壙、土壙墓、弥生土器、土師器、須恵器、赤褐色土器、鉄製品(馬具・鎌・刀)、銙帯金具、銭貨
18	湯ノ沢G	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	遺物包含地	縄文	縄文土器、石器
19	湯ノ沢H	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	遺物包含地 住居跡	縄文・弥生	縄文土器、石器、弥生土器
20	野畑	秋田市上北手御所野字野畑	集落跡	縄文(中期)	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
21	野形	秋田市上北手御所野字野形	住居跡 窯跡	平安	竪穴住居跡、窯跡、土壙、土師器、須恵器、赤褐色土器、土錘
22	深田沢	秋田市上北手御所野字深田沢	集落跡	平安	掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土師器、須恵器、赤褐色土器
23	台A	秋田市上北手古野字台	集落跡	縄文(中期)	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
24	地方	秋田市上北手猿田字堤ノ沢	集落跡 土壙墓群	縄文(中・晩期)	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙墓、縄文土器、石器、土製品
25	湯ノ沢I	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	遺物包含地	弥生・平安	土壙、弥生土器、土師器、土錘
26	秋大農場南	秋田市四ツ小屋末戸松本字地蔵田	集落跡	旧石器・縄文(中期)・平安	竪穴住居跡、土壙、土器埋設遺構、縄文土器、石器、土製品
27	台B	秋田市上北手猿田沢字寺ノ沢	遺物包含地 住居跡	縄文	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器
28	下堤A	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	縄文(中期)・平安	竪穴住居跡、フラスコ状ピット、土壙、縄文土器、石器、土製品、土師器
29	下堤B	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	縄文(中期)・平安	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、石器、須恵器、赤褐色土器
30	下堤C	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	縄文・奈良・平安	竪穴住居跡、土壙、縄文土器、土師器、須恵器、赤褐色土器
31	下堤D	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	集落跡	旧石器・縄文・平安	旧石器、縄文土器、石器、土製品、赤褐色土器
32	坂ノ上A	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	住居跡	縄文	竪穴住居跡、土壙、配石、縄文土器、石器、土製品
33	坂ノ上B	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	遺物包含地	縄文	縄文土器、石棒、土製品
34	坂ノ下館	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下	城館	中世	
35	小阿地古墳	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下	古墳	平安	八花鏡、直刀、蕨手刀、鉄斧、勾玉、須恵器
36	坂ノ下I	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下	遺物包含地	縄文	縄文土器、石器
37	坂ノ下II	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下	遺物包含地	縄文・奈良・平安	縄文土器、石器、須恵器
38	古野館	秋田市上北手古野字四枚田他	城館	中世	主郭、郭、腰郭、帯郭、空掘
39	篠田台	秋田市上北手猿田字篠田台	遺物包含地	縄文	石器、剥片
40	宝竜崎	秋田市上北手猿田字宝竜崎	遺物包含地	縄文・平安	縄文土器、石器、須恵器
41	館ノ下館	秋田市上北手猿田字館ノ下	遺物包含地 城館	縄文・奈良・平安 中世	石器、剥片、須恵器、鉄滓
42	弥生館	秋田市上北手猿田字弥生館	遺物包含地 城館	奈良・平安 中世	土師器、主郭、帯郭、腰郭

表1　周辺の遺跡


宝竜崎上溜池
横山
調査区
昭和61年調査範囲
産業廃棄物最終処理場
大杉沢遺跡の範囲
四ッ小屋小阿地
大杉沢
御所野下堤四丁目
0
1,000m

第3図　遺跡周辺の地形



第4図　グリッド配置図

調 査 の 記 録

基本土層（第５図）

基本土層は第Ⅰ層 表土、第Ⅱ層 明褐色土、第Ⅲ層 にぶい黄褐色土で、第Ⅰ層が耕作土(30－50cm)、第Ⅱ層がローム漸移層、第Ⅲ層がローム層（地山）である。

第５図 基本土層柱状図

遺構と遺物

確認された遺構は土壙10基、ピット40個で、全て地山面の確認である。

土　　壙

１号土壙（第６図）

調査区の東側で確認された。

長軸100cm、短軸90cmの方形を呈し、確認面からの深さは８cmで、壁は緩く立ち上がる。底面は平坦である。

２号土壙（第６図）

調査区の東側で確認された。

南側は耕作の攪乱によって削平されているが、現状では長軸60cm以上、短軸75cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

３号土壙（第６図）

調査区の西側で確認された。

長軸70cm、短軸70cmの円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

出土遺物

赤褐色土器坏片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

４号土壙（第６図）

調査区の西側で確認された。

長軸128cm、短軸100cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは33cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

出土遺物

赤褐色土器坏片、石器剝片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

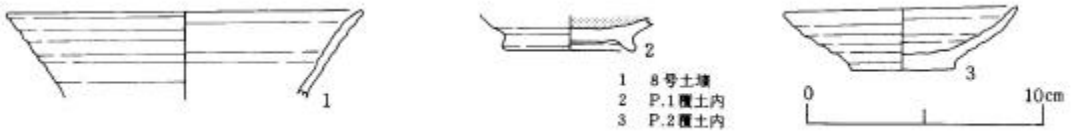
５号土壙（第６図）

調査区の西側で確認された。

長軸65cm、短軸55cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

６号土壙（第６図）

調査区の西側で確認された。



第７図　遺構内出土土器

長軸145㎝、短軸90㎝の不整形を呈し、確認面からの深さは14㎝で、壁は南側が緩やかに、北側がほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

７号土壙（第６図）

調査区の西側で確認された。

長軸110㎝、短軸75㎝の楕円形を呈し、確認面からの深さは15㎝で、壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

出土遺物

赤褐色土器甕破片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

８号土壙（第６図）

調査区の西側で確認され、９号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

長軸70㎝、短軸65㎝の楕円形を呈し、確認面からの深さは25㎝で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

出土遺物

土器（第７図１）

１は覆土出土の推定口径15.4㎝の赤褐色土器椀形土器である。胎土には砂粒を多く含んでいる。

９号土壙（第６図）

調査区の西側で確認され、８号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

長軸70㎝、短軸50㎝の楕円形を呈し、確認面からの深さは20㎝で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸がある。

10号土壙（第６図）

調査区の中央部で確認された。

長軸95㎝、短軸70㎝の楕円形を呈し、確認面からの深さは10㎝で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

出土遺物

赤褐色土器坏破片、石器剝片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

ピット（第８図）

調査区の東側から西側で確認された。

径20㎝前後のほぼ円形を呈し、深さ７～38㎝で、10～15㎝のものが多い。

出土遺物（第７図２、３）

２はＰ．１覆土出土の土師器台付坏で、底部切り離しは回転糸切りである。台貼り付け後に台周縁および台内側

を撫で調整している。内面にミガキ後、黒色処理をしている。3はP.2覆土出土の赤褐色土器坏で、底部切り離しは回転糸切りである。底部より緩く内湾しながら立ち上がる。

遺構外出土遺物

縄文土器破片、赤褐色土器破片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

まとめ

遺跡はJR四ツ小屋駅北東約1.6kmの地点、標高40mの末戸台台地上に位置する。調査区はこの末戸台台地から西へ延びる舌状台地の付け根部分に位置する。この台地の先端部周辺は昭和61年に秋田県教育委員会が緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期前半から平安時代にかけての土壙34基、縄文時代後期の土器埋設遺構3基、古代の竪穴住居跡1軒、時代不明の溝、環状溝状遺構等が確認された。土壙は縄文時代後期初頭に属するものが最も多く、調査区の東側に分布していることが報告されている。

今回の調査でも昭和61年に行われた調査と同様に遺構確認面まで攪乱を受けていたが、土壙10基、ピット40個確認された。土壙の形態は断面形が皿状を呈し、平面形が楕円形を呈して浅いものが大部分を占めている。調査区の西側に集中しており、切り合いの認められるものもある。性格については不明である。時期については出土遺物の量が少なく明確にすることはできないが、8号土壙から椀形を呈する赤褐色土器坏、また土壙周辺で確認されたピットの一部から出土した小型の赤褐色土器坏の特徴として、底部切離しが回転糸切り無調整で底径が小型化し底部からやや内湾ぎみに口唇部に至り、ヘラ削りなどの調整は認められないことなどがあげられる。この土器は秋田城跡第28次調査SX478不明落ち込み(注2)出土土器に類似しており、10世紀中葉以降に位置付けられるものと考えられる。

今回の調査では無線基地局建設部分の調査であり、遺跡の全貌を明らかにするまでには至らなかった。また、確認された遺構の性格を決定することはできなかった。今後は当該期の調査例と、周辺遺跡の調査を含めて遺跡の性格を再考する必要がある。

(注2)「秋田城跡　昭和55年度秋田城跡発掘調査概報」7、8ページ　第6、7図28～40

参考文献

「秋田城跡　昭和55年度秋田城跡発掘調査概報」　秋田市教育委員会　1981年3月

「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上E遺跡 湯ノ沢A遺跡 湯ノ沢C遺跡 湯ノ沢F遺跡 湯ノ沢G遺跡 湯ノ沢H遺跡 野形遺跡」　秋田市教育委員会　1984年3月

「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤E遺跡 下堤F遺跡 坂ノ上F遺跡 狸崎A遺跡 湯ノ沢D遺跡 深田沢遺跡」秋田市教育委員会　1985年3月

「大杉沢遺跡発掘調査報告書－一般国道13号御所野拡幅事業に係る埋蔵文化財発掘調査－」　秋田県文化財調査報告書第151集　秋田県教育委員会　1987年3月

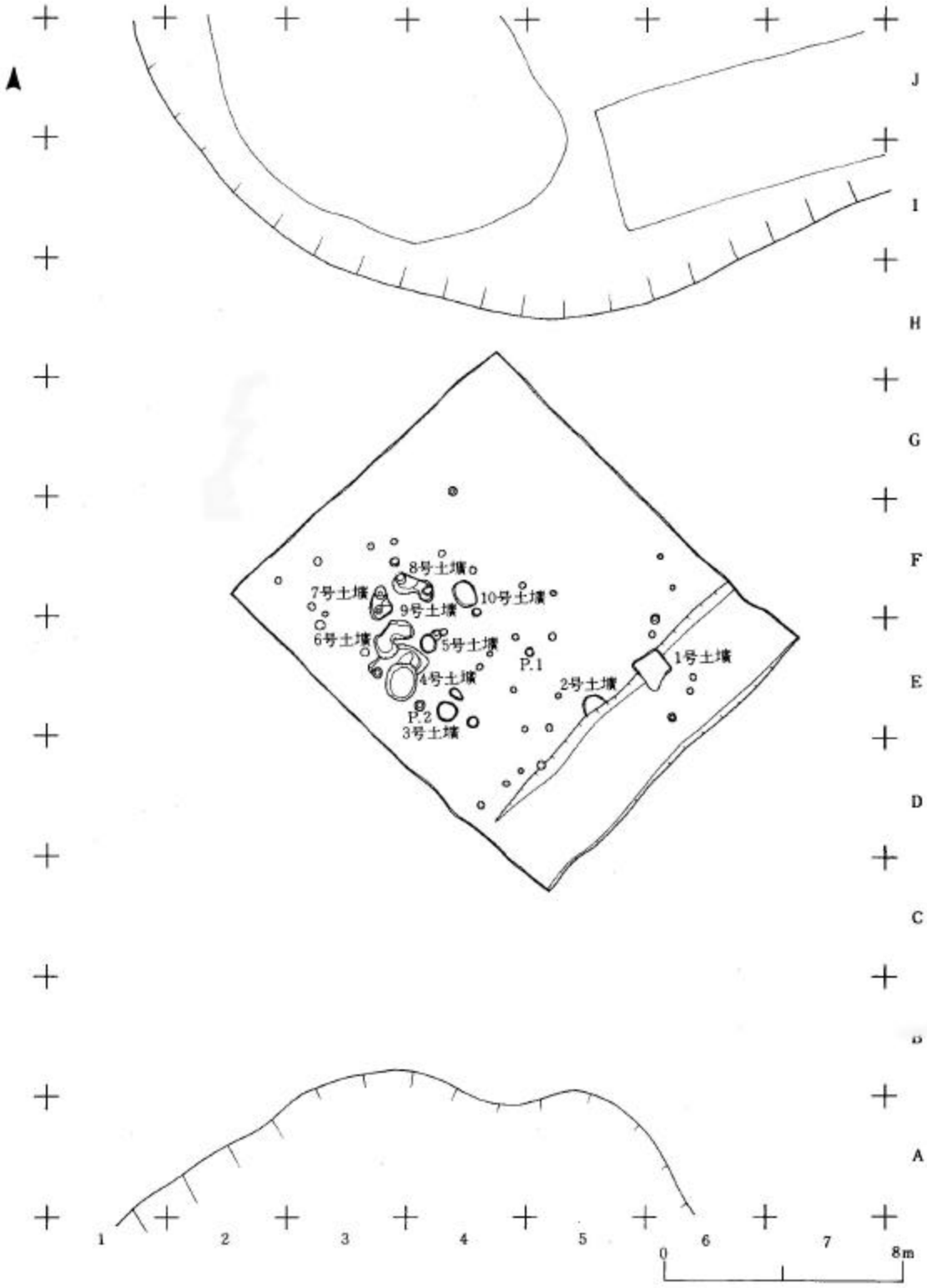
「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤C遺跡」　秋田市教育委員会　1987年3月

「秋田城跡　平成3年度秋田城跡発掘調査概報」　秋田市教育委員会　1992年3月

「秋田城跡　平成8年度秋田城跡発掘調査概報」　秋田市教育委員会　1997年3月

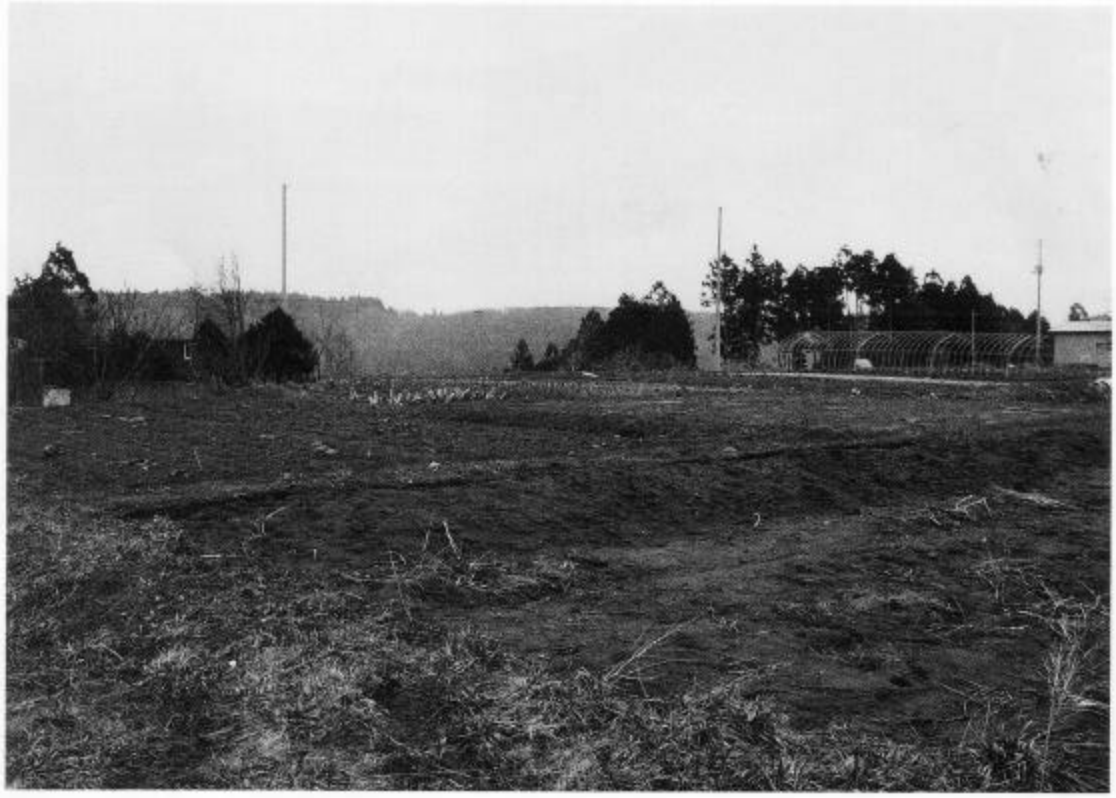
小松正夫　「秋田県の10世紀の土器」　日本土器事典　雄山閣　1997年3月

伊藤武士　「出羽における10･11世紀の土器様相」　第83回北陸古代土器研究会シンポジウム資料　1997年5月


J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8m
0
8号土壙
7号土壙
9号土壙
10号土壙
6号土壙
5号土壙
P.1
1号土壙
4号土壙
2号土壙
P.2
3号土壙

第8図　遺構配置図

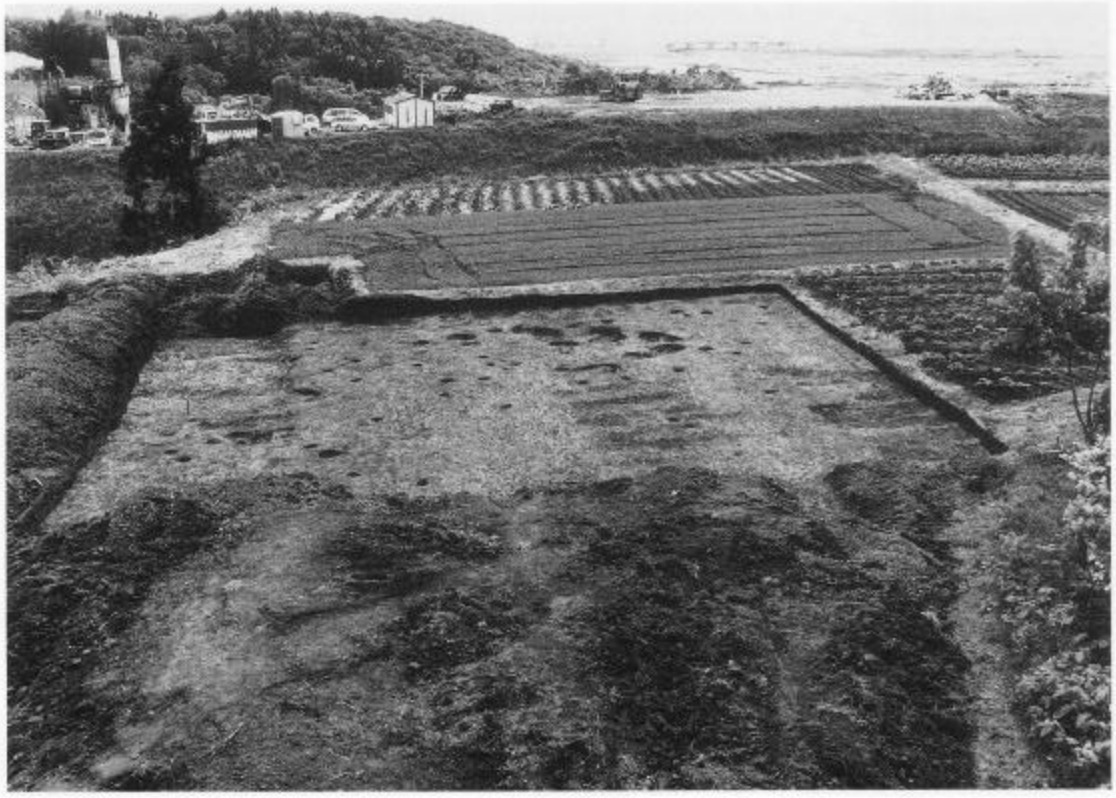
遺跡遠景（北→）



調査前（北西→）

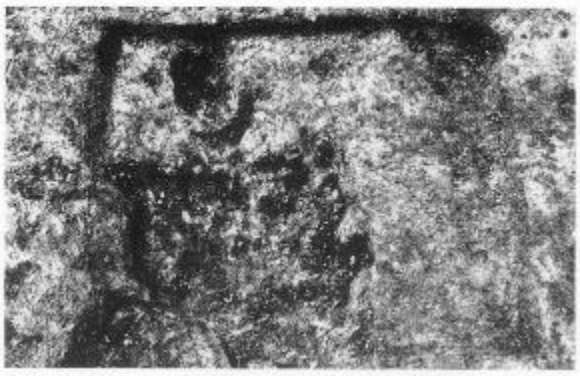
図版 1

調査区全景（南東→）



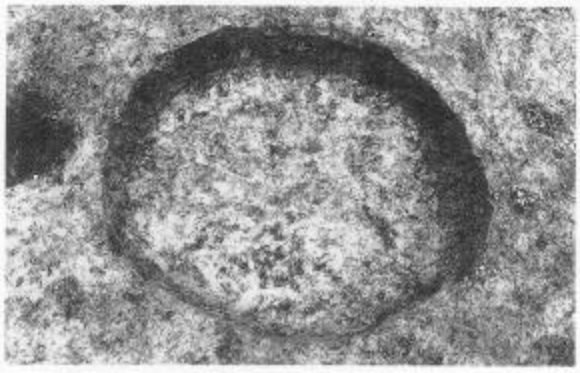
調査区全景（北東→）

図版 2

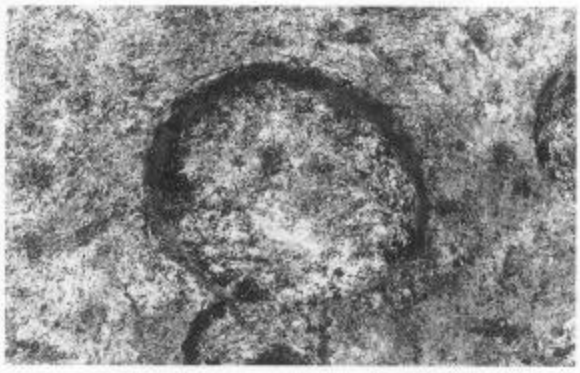


1号土壙（南東→）

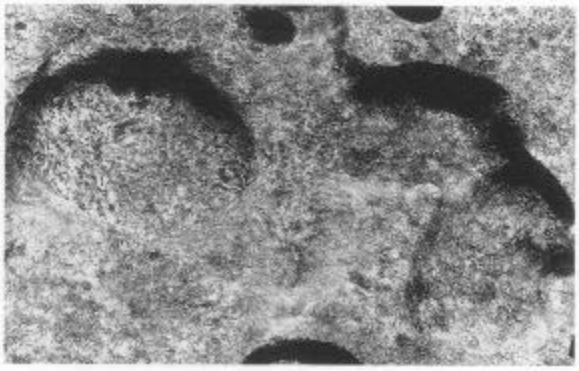
2号土壙（南東→）



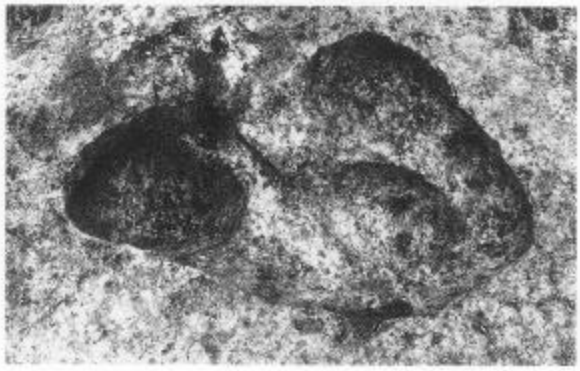
3号土壙（東→）



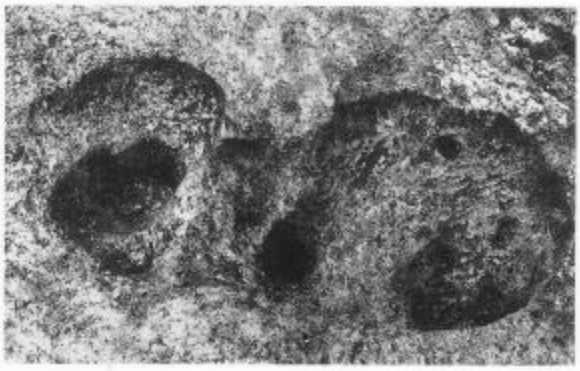
5号土壙（北東→）



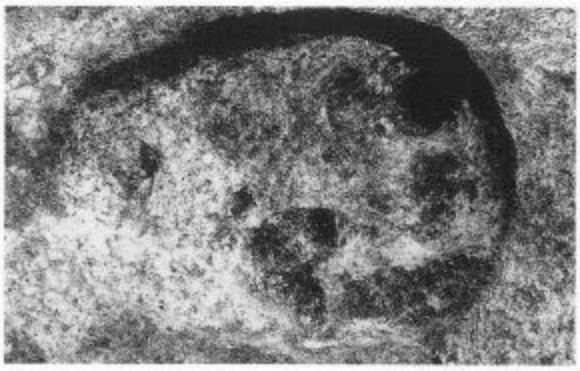
4号・6号土壙（東→）



7号土壙（西→）

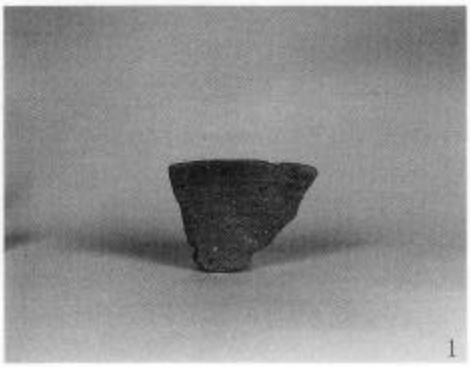


8号・9号土壙（北→）



10号土壙（北東→）

図版3



出土遺物

1　8号土壙
2　P.1
3　P.2

図版 4

ふ り が な	おおすぎさわ いせき
書　　名	大杉沢遺跡
副 書 名	デジタル方式携帯電話無線基地局建設に伴う緊急発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	西谷　隆
編 集 機 関	秋田市教育委員会
所　在　地	〒010　秋田県秋田市山王二丁目１番53号　℡ 0188－66－2246
発行年月日	西暦　１９９７年９月

ふりがな 所収遺跡名	ふ り が な 所　在　地	コ ー ド 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調 査 原 因
おおすぎさわ 大 杉 沢	あきた し よつごや 秋田市四ツ小屋 こ あ じ あざおおすぎさわ 小阿地字大杉沢	05201	285	39度 40分 10秒	140度 9分 42秒	19970515～ 19970529	175	デジタル方式携帯電話無線基地局建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主 な 遺 構	主　な　遺　物	特　記　事　項
大杉沢	集落跡	平安(中葉)	土壙　10基 ピット　40個	赤褐色土器	

秋田市
大杉沢遺跡
携帯電話無線基地局建設に伴う
緊急発掘調査報告書
平成9年9月
編集・発行　秋田市教育委員会
印　　刷　秋田活版印刷株式会社